

みんなで
取り組もう!

イノシシ対策

農作物や田畑を荒らし、ときには車や人と衝突事故を起こす有害鳥獣のイノシシ。集落に姿を現すのは餌がありイノシシが住みやすい環境だから。獣害対策は、住民一人ひとりがイノシシの住みにくい環境づくりを意識し、集落ぐるみでの環境整備、捕獲するなどみんなで力を合わせれば大きな効果が得られます。

今号では、みんなができるイノシシ対策を紹介します。今からでも遅くありません。できることから始めてみましょう。

農林整備課 ☎32-6793

知らず知らずのうちにイノシシを寄せ付ける環境を作っているかも知れません

イノシシは慎重で臆病な性格の動物ですが、集落付近に茂みなどの隠れる場所があると人の生活の場にも姿を現します。また、農作物だけでなく放置された果樹から落ちた実や収穫時に捨てられた作物のくずも格好の餌になります。食べられても困らないからと放置するのは餌付けしていることと同じです。あなたの集落もこんな環境になっていませんか。



竹林のタケノコが餌



耕作放棄地

隠れるのに
ちょうど
いいな



稲刈り後の二番穂



収穫残さ

放置された
作物は
栄養があって
おいしいな

イノシシからの被害をなくすには？

イノシシは学習能力が高く、一度「餌場」と認識すると何度も訪れます。個人で防護柵などを設置しても集落内に餌がなくならないうちは被害に遭う危険性はなくなりません。また、繁殖能力が高く1回の妊娠で4～5頭を出産。これに豊富な餌が合わさることでどんどん増えていきます。

イノシシ被害対策のカギは「みんなで一緒に取り組むこと」です。まずは勉強から始めてみましょう。



市政だより

あまくさ 10 月号 2020

主な内容

- 2 みんなで取り組もう！イノシシ対策
- 8 いきいき健康
- 12 職員の人数と給与
- 14 暮らしの情報
- 26 未来のスター／和んチーム
- 27 わたしの記念日
- 28 市民のひろば
- 30 世界遺産トピック／天草見どころ図鑑
- 31 キラリ天草人
- 32 宝島のわだい
- 34 お出かけ情報／10月の潮汐
- 35 休日在宅病・医院
水道修繕当番店／献血日程
- 36 「旅するキャンパス」2020開催中



マチイロ



Facebook



Instagram

人のうごき 8月末日現在

8月中の異動		※()内は前月比	
人口	78,570 (79減)	出生	31人
男	36,899 (32減)	死亡	102人
女	41,671 (47減)	転入	117人
世帯数	36,861 (15減)	転出	125人

問い合わせ先

本 庁 | 天草市役所 ☎23-1111
〒863-8631 天草市東浜町8番1号

支 所 | 牛 深☎73-2111・有 明☎53-1111
御所浦☎67-2111・倉 岳☎64-3111
栖 本☎66-3111・新 和☎46-2111
五 和☎32-1111・天 草☎42-1111
河 浦☎76-1111



▲イノシシを知るための勉強会

イノシシの ことを知る

おいらは
集落のことを
良く知って
るんだ



有害鳥獣研究の第一人者である井上雅史^{まさし}さんを講師に招きイノシシの生態などを勉強しました。イノシシは山から来ているのではなく近くの耕作放棄地に住んでいることや集落内に放置された柿の木等を切って餌になるものを減らすなど今まで知らなかったことを学ぶことができました。



集落協定代表
森下雅成^{まさなり}さん

イノシシ部門のリーダー
中田満志^{みつし}さん

イノシシを 集落に寄せ 付けけない

集落でイノシシ被害の対策に取り組み、被害を食い止めた楠浦町方原集落にインタビューしました。

方原集落

35世帯79人(令和2年時点)

※昨年度、有害鳥獣の被害対策に取り組む大きな成果を上げたことで県が「鳥獣被害対策マイスター集落」に認定しました。

方原集落には20年前からイノシシによる被害が開始されました。平成18年に水田の区画整理を行ってからはさらに被害が増えました。農地を金属の線で囲い電気で追い払う電気柵を設置するなどの対策をしましたがあえなく失敗。何かいい方法はないかと頭を抱えていたところ、市の担当者から県の「鳥獣被害対策担い手育成事業(現「えづけSTOP!」鳥獣被害防止対策事業)」を紹介してもらい平成26年度から集落全員で取り組んでいます。

「えづけSTOP! 鳥獣被害防止対策事業」とは

集落や農業者等でつくるグループがイノシシ被害を防止するための勉強会の講師謝礼や旅費、環境整備などに係る経費を補助する事業。



▲みんなで防護柵を設置

県の鳥獣被害対策事業とは別に国の補助事業を使って防護柵の材料を支給してもらいました。ワイヤーメッシュという格子状の鉄の柵で電気柵のように電源の確保や漏電の心配がありません。

広い農地なのでエリアを3つに分け、初年度はそのうちの1つに設置。メッシュの両端を1マス重ねるなど井上さんから学んだことを取り入れました。柵は稲刈り後に生える二番穂^{ひこばえ}を食べに出来ないように1年中設置しています。

防護柵 を設置

どこからも
入れないなら、
この集落では
暮らせ
ないな...



まずは 集落の現状 を知る

まずは、集落の現状を知るために集落内を歩いて調査しました。被害に遭った状況などから「あの辺りからイノシシが出てきているのだろうか」と思っていたところ、実際はまったく別のところに獣道があることやイノシシが潜める茂みを発見するなど今まで勘違いしていたことや気付かなかったことを知るきっかけになりました。2日間かけて収集した情報を地図に落とし込み集落の点検マップが完成。これは防護柵の設置計画や点検のための見回りにとても役立っています。



集落内を 定期的に 点検し 情報共有

3つのエリアそれぞれにリーダーを選びグループで防護柵の点検・補修や除草作業を行っています。被害や防護柵の破損などがあればリーダーの会議で情報を共有し、その後の対策に役立てています。



▲集落内を点検



▼会議で情報共有

被害がゼロに

6年に渡って取り組んできた有害鳥獣対策。被害は年々減少していき、防護柵の設置が済んだ平成29年度以降はほとんどなくなりました。一度失敗しているからこそまずは鳥獣害対策を学ぶことがいかに大切かということを集落全員が実感できました。大変なこともみんなで楽しみながら作業できるところが集落で取り組むことの良さだと感じています。

電気柵を正しく設置しよう！

電気柵は正しく設置し、適正に管理をしないとその効果も半減します。仕組みを理解して効果的に対策しましょう。

■設置場所周辺の環境に注意

- 柵から1 m程度の茂みを刈り取る
- 雑草や作物が線に触れると漏電の原因に
- 柵は作物と離して設置
- 地面を整地して侵入できる隙間をなくす

■設置後の管理が大事

- 電源は24時間365日入れる
- 効果があるのは電圧が4000V以上。定期的にチェックを
- アース線は一本いっぽんを離し、根本まで土に刺す

■線を張る高さに注意

イノシシが電気を感じるのは鼻のみ。鼻の高さを考えて張りましょう。

【目安】

- ・大人のイノシシ 地面から40cm
- ・ウリ坊(子ども) 地面から20cm

野生鳥獣による農作物被害対策に補助します

防護柵設置事業

農地を囲む防護柵の購入費用の一部を補助します。

対象

金網柵、電気柵・ワイヤーメッシュ柵、トタンなど

補助額(上限50万円)

費用の3分の2 ※どちらも事前申請が必要

①隣接する他の農地と一体的に囲う場合

②隣接する農地がなく単独で設置

費用の2分の1

①、②に該当しない場合

※補助額によって申請方法や必要書類が異なります。詳細はお尋ねください。



▲市ホームページ

緩衝帯整備事業

緩衝帯は手入れがされていない里山などにある雑草木、放任果樹の伐採をすることで見通しを良くした区域。



整備するとイノシシの潜み場をなくし農地への出没や侵入を抑止する効果が期待できます。

3戸以上の集落・集落協定で緩衝帯を整備する費用の一部を補助します。

詳細はお尋ねください。



▲市ホームページ

申請農林整備課 ☎32-6793 / 各支所

みんなで取り組むことが被害を減らす近道

イノシシの被害は捕獲するだけではなかなか減りません。「餌をなくす」「農地に近寄らせない」「捕獲する」この3つを組み合わせることでより効果が上がります。市や県などの事業を活用した環境整備も必要ですが、まずはイノシシのを知り、集落ぐるみで取り組むことが大切です。今からでも遅くありません。みんなでイノシシ対策に取り組もう！



天草市有害鳥獣捕獲対策協議会会長 志山 哲美さん 67歳(新和町)

捕獲する

イノシシの被害を減らしていくためには捕獲することも重要です。本市の有害鳥獣捕獲隊には255人が在籍。イノシシからの被害を減らすため、日々奮闘している捕獲隊員に話を聞きました。

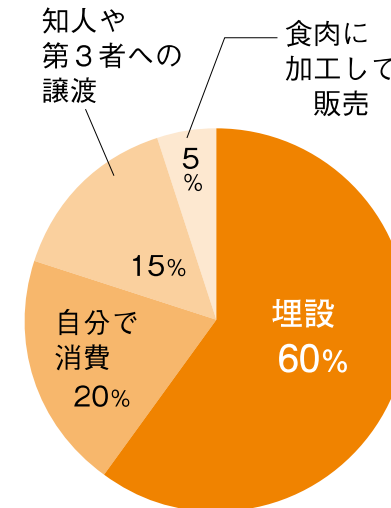
志山さんは22年前から猟銃と箱わなを使ってイノシシを捕獲しているベテラン隊員。当時、新和地域ではイノシシによる農作物の被害が開始しており、それを防ぎたい思いで狩猟免許を取得し、結成間もない捕獲隊に入った。

イノシシは警戒心が強く、わなを設置してもすぐには入らない。餌付けしながら徐々に誘いこむため毎日見回るなど根気が必要。捕獲したイノシシを土に埋める作業も重労働だ。「大変なことも多いけど、捕獲を頼まれた農家さんから感謝されるのがなによりうれしい」と笑顔で話す。多くの隊員がこのボランティア精神で活動している。

体が元気なうちは捕獲を続けていきたいと思っている志山さんだが、隊員が高齢化していることを心配しており、若い人の入隊を望んでいる。「被害を減らすには捕獲も重要だが、農地に寄せ付けないことや農地を荒らさないことが大切」と話す志山さん。集落内の餌をなくすとイノシシが箱わなの餌を食べる確率が上がるなど、隊員と集落が力を合わせることで効果的な対策ができるという。隊員は「捕獲する」という立場でこれからもイノシシ被害対策に取り組んでいく。

処分の負担を減らし、資源化で有効活用

本市では年間約6千頭が捕獲されます。捕獲したイノシシは適切な処理が必要で6割が自己所有の土地などに埋設されています。スコップなどを使って穴を掘る隊員が多く、負担に感じています。



隊員の負担軽減やイノシシを肥料などに資源化して有効活用するため、新和町に処理施設を建設中です(令和3年3月完成予定)。

隊員にも高齢化の波

隊員は50歳代以上が全体の8割を占めています。グラフを見ても隊員の年齢が上がっていることがわかります。捕獲隊の体制を維持するためには若い隊員を増やしていく必要があります。

